



宝塚市立良元小学校 学校通信

良元通信

家庭数
配布

令和6年(2024)9月12日号

校長 狩野 洋光

全国学力・学習状況調査

一学期に行ったテストの結果が返ってきました。

7月末の報道によると、兵庫県は、算数と数学では、全国5位でした。小学国語は、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」、中学国語は、「他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること」に課題があると分析されています。

全国的に国語の「読み」「書き」の力の低下が見られます。

		平均正答率	全国順位
小6	国語	68%	14位
	算数	65%	5位
中3	国語	58%	15位
	算数	55%	5位
読売新聞 2024.7.30			

長文・記述式 苦手「忍耐力が…」

「授業で長文を読ませても、すぐ諦めてしまう」

東京都内の中学校で国語を教える女性教員(47)は学校現場の実情を明かす。授業で教科書にある文章を読ませ、作者の思いや言葉の意味を問いかけたところ、教科書を開かずに手元の学習用端末で検索を始める生徒もいた。

甲信越地方にある中学校で国語を担当する30歳代の男性教員は「文章を読み解く忍耐力のようなものが年々下がっている」と語る。学力テストの結果を受け、男性教員は「SNS など短く刺激的なコンテンツに慣れ、文章を味わったり、読み解いたりする醍醐味を知らない子どもが多いのでは」と懸念を強くする。

中央学院大の田島ますみ教授(日本語教育)は、「最近の大学生は、文脈を読む力が弱まっているように感じる。SNS での短文のやりとりや動画の視聴などが影響しているのでは」とみる。

(読売新聞 2024.7.30)

子どもたちの言語環境づくりは、お家の方の協力が欠かせません

学校での授業時間は年間800時間を超えない。正味45分授業が1日6コマ×175日程度だからだ。(ちなみに実技教科を除く主要教科はおよそ半分の400~500時間)。

これに対して児童生徒の生活時間は、起きている時間を16時間として365日で約5800時間だから、学校での授業は全生活時間の13%程度になる。

テレビとゲームで1日3時間遊んでいれば年間1000時間以上になりますから、主要教科をその半分の時間しか学ばない学校教育だけで学力が上がるわけがないんです。ちなみに国語は年に100時間程度ですから、日本語より確実にテレビやゲームの言葉話すようになるでしょう。

(教育改革実践家 藤原和博)

「言葉」の学習は、学校だけで習得できるものではありません。お家の人による絵本の読み聞かせといった、本に親しむ環境づくりを大切にしていきたいものです。また、短い言葉ですまさないようにすることも大切だといわれています。場に応じた話し方や語尾まで話すことをお家の人からも教えていただければと思います。「こういう時は、こう話すんだよ」と、さらりと伝えるだけで十分です。

早寝、早起き、朝ごはん

先日の学校通信で、「朝のあいさつをがんばってほしいな」とお知らせしました。朝のあいさつが聞こえてきにくいのは、ひょっとすると、「朝ごはん」と「生活リズム」が関係しているのかもしれません。

スマホとの上手な付き合い方を

新聞によると、SNSや動画、ネットゲームといったスマホの利用時間が長いほど平均正答率が低下する傾向にあるそうです。海外も同様の状況で、子どものスマホとの付き合い方が課題となっています。スマホとの上手な付き合い方について考えさせる機会を学校でもつくっていきます。ご家庭でも話し合ってください。

自己肯定感は何よりも大切

児童質問では、「自己肯定感」の低さが気になりました。控え目に答えたのかもしれませんが、自信をもって「自分には、よいところがある」と言えるように、周りの大人から、「あなたのいいところはね・・・」「あなたがいてよかった」と伝えていきたいものです。